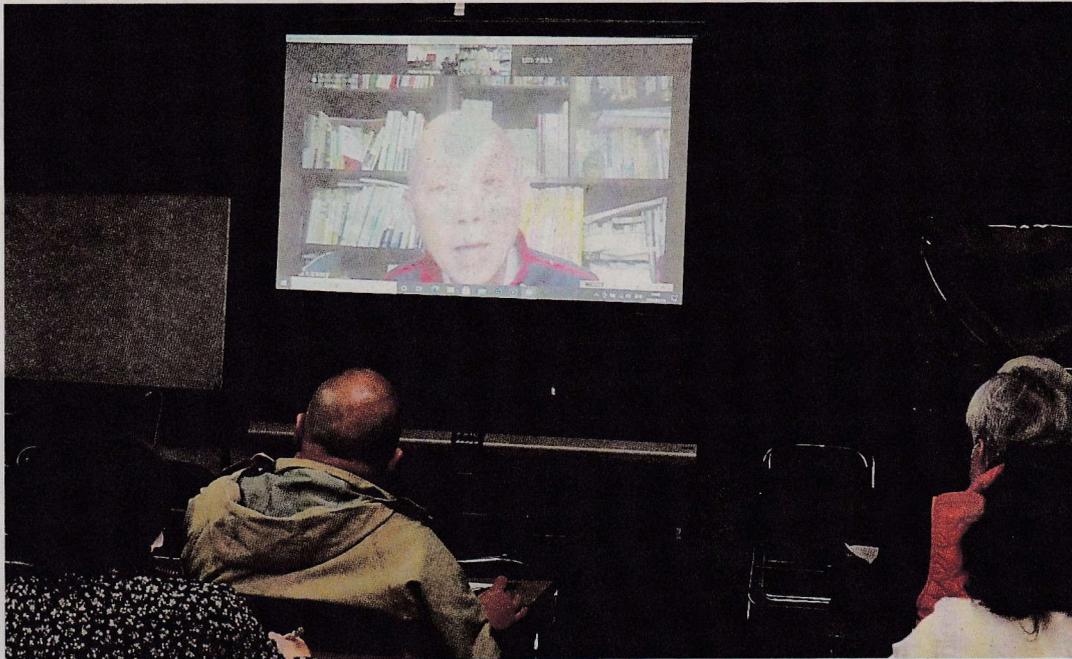


「放射線の影響2世にも」



丸尾さんがオンラインで講話した「体験を聞く会」

長崎市 県勤労福祉会館

県被爆二世の会「体験を聞く会」初開催

被爆者を親に持つ被爆2世でつくる「県被爆二世の会」は2世としての体験を語る取り組みを始めた。戦後75年以上が過ぎ、2世の高齢化も進んでいることが理由。初回は同会会長で、がんで闘病中の丸尾育朗さん(73)が講話し「放射線の影響は2世にも及ぶと考えざるを得ない状況が続いている」と強調した。

丸尾さんの母は24歳の時、爆心地から4・5キロで被爆。2年後の1947年に丸尾さんは生まれた。原爆放射線の遺伝的影響などを訴える被爆2世の運動に尽力してきたが、2018年膀胱がんの手術を受け、今年に入って転移が見つかった。今は抗がん剤投与を受けている。

被爆者運動の継承のため「核にも戦争にも反対」と訴え続けてきた。「被爆者の思いを引き継ぎ、自身の体験も踏まえ、核兵器が廃絶されるまで訴え続けなければならぬ」と決意を語った。

初めて開いた「体験を聞く会」は10日、長崎市桜町の県勤労福祉会館であり、約30人が参加。新型コロナウイルス感染防止のため、オンラインで講話した丸尾さんは、母

「体験を聞く会」は随時開催する予定。

(後藤洋平)